

# 政府税制大綱における扶養控除存続の決定について

2009年12月25日

日本難病・疾病団体協議会（JPA）

一部分を除き、また将来の見直しの余地を残したものではありませんが、当面は「扶養控除」の存続が決まったことは大変嬉しいことと歓迎いたします。

全国の患者・家族団体の必死の活動が実ったものですが、同時に、私ども患者・家族団体の活動で、難病や長期の病気、介護で苦しんでいる多くの国民の生活の破壊を少しでも食い止めることができたとすれば、私どものこの間の苦労が報われたという思いです。

患者・家族の願いを受け止めて、最後までがんばっていただいた政府税調委員の皆様、私どもの要望を取上げていただいた与野党の各議員の皆様に心から感謝申し上げます。

しかし、福祉や社会の谷間とも言われている、難病患者や長期慢性疾患、そして介護で苦しんでいる多くの国民の存在に気がつかず、一日も早く急ぐべきそれらの支援を先送りしながら、まず増税を考えた政府と与党には深く反省をうながしたいと思います。

難病・長期慢性疾患患者、介護を必要としている患者とそれらの家族への支援を強化・拡充する政策を一日も早く確立していただくよう、政府と与党に対する要望を今後も一層強めていきたいと思っております。